

私は2009年2月～7月までスペイン・バレンシア工科大学(UPV)へ留学をしました。留学の目的は、異文化交流・研究・語学の勉強でした。私は現在、高知工科大学で、光通信・光計測などの分野に応用するための研究を行っています。そして、ヨーロッパ圏でも光を使った応用研究が盛んに行われていると伺い、思い切って留学を志願しました。中学・高校時代から英語の成績が特別よかったわけでもなく、むしろ下から数えたほうが早いレベルでしたが、留学を決意した2008年春からコツコツと自分の英語力を少しでも上げていこうと努力しました。本学からは今までタイや中国などアジア圏への留学が多く、スペインなどのヨーロッパへの留学者はまだおらず、私が初めての留学生になりました。どんなところなのかわからない土地へ行く不安はありましたが、本学国際交流オフィスの方々の強力な支援に背中を押されて、「とりあえず行ってみよう。そして、(大学には悪いけど、)本当にしんどくなったら帰ろう。」と思い、渡欧しました。

スペインに着いてまず思ったことは「英語が通じない…」ことでした。スペインでの公用語はスペイン語です。英語とスペイン語は語族が同じとされていますが、単語も発音の仕方も全く違いました。英語での会話も大変なのに、スペイン語も勉強するのか…いきなり大きな壁にぶつかりました。日本では英語の勉強で精一杯だったので、スペイン語の勉強をほとんどしていませんでした。UPVではスペイン語を勉強する講義もありましたが、講義で先生が使用する言語もスペイン語でした。しかし、講義中はずっとスペイン語を聞き、読むわけですから言語を学ぶ上では一番良い方法だと思いました。最終的には、スペイン語の講義も合格することができ、一人でマドリッドなどの他の都市に行っても、比較的不自在することなく旅行をすることができるまでに成長しました。

スペインで得たことは、スペイン語だけではありません。外国の方との交流もありました。特に韓国人の友達が増えました。日本に対して親日的な方ばかりで、英語を教えてもらうこともありました。日本に帰ってきてからも定期的にメールなどで連絡を取り合っており、今度韓国へ会いに行くことも計画しています。日本とは違う文化として、宗教的なものもありました。日本では、宗教というと怪しげなイメージが付いているように思います。日本は多様な文化を受け入れ、お盆やクリスマスなど宗教を超えて、各行事・イベントに取り組んでいます。このような多様な文化が混ざった日本の文化もおもしろいし、キリスト教のミサでみんなで歌うなどの文化もおもしろいなと思いました。

また、どんな状況になっても何とかできる(何とかなる)と思えるようなどっしりと構えることができるようになりました。海外に行くと自分だけで対応できること、自分だけで対応しきれないことなど多々ありました。特に、スペイン語を使ってアパートの契約を行うなどは、自分が対応できることではなく、誰かにお願いする必要があります。自分自身ができること、時間をかけて自分で対応できること、無理に頑張ると後々大変になることなどの判別ができるようになりました。就職していくと自分が行動するうえのリスクも考えないといけません。自分が頑張れば手に負える作業なのか、見極めるのも大事だと思いました。

研究面では成果が認められて国際会議で採択され、十分な結果を出すことができましたと思います。

今回の留学経験では、様々な人々と話す度胸ができました。また、どんな状況に陥っても落ち着いて状況を判断し、対処できるようになりました。英語・スペイン語はまだまだ未熟ですが、自分の考え・言いたいことを伝える「努力」はできます。絵を描いたり、自分の発音が悪いのであれば単語を書く、身ぶり手ぶりなど、様々な方法で自分の意思を伝えることができます。言語は、あくまで一つのコミュニケーションツールとして考えられるようになりました。そして、どこに行っても、どんな状況でも「何とかなる!!!」と思えるようになりました。

今回の留学時期が就職活動の時期と重なっていたり、一人での留学する不安もありましたが、国際交流オフィスの方々の支援もあり、無事に留学過程を終了することができました。

高知工科大学では、今回の留学など様々な経験をさせていただき、本学に入学するころからは想像できないほど成長できたと思っています。自分が望むことを実現できる大学(もちろんそれなりに自分の努力も必要ですが…)だと思い、このような機会をいただき感謝しています。